

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	郡上市	学校名	郡上市立八幡中学校				
校長名	石田 誠	対象学年	1・2・3年生	人数	1年生84名・2年生87名・3年生79名		
活動名	総合的な学習の時間「凌霜」 ・ふるさと郡上に目を向ける(1年生) ・ふるさと郡上で学ぶ(2年生) ・ふるさと郡上の将来を考える(3年生) ・ふるさと郡上を学ぶ体験学習(2～3年) 地域行事・催しへの参加(全校)			時間数	(1年生) 27時間 (2年生) 38時間 (3年生) 14時間 (2～3生) 35時間	継続年数	10年 企画書の取組は3年
題材	1 自然環境(山野・河川・動物・植物・その他) [] 2 歴史(出来事・史跡・先人・その他) [] ③ 文化(芸能・芸術・民話・風習・その他) [郡上踊りとお囃子・郷土料理] ④ 地場産業(農業・水産業・伝統工芸・その他) [地元で勤労体験・郡上八幡の観光] ⑤ 絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 [地域行事参加・町おこし企画・地域の福祉] 6 その他() []						
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画や使用する学習プリントや教材・教具を改善したり、その年に指導をお願いした地域の指導者の方とその依頼方法等を蓄積したりしながら、確実に残し次年度に引継ぐようにしている。 ・「ふるさと郡上を学ぶ体験学習」では、学習の出口として、夏に本物の踊り屋台でお囃子を務めたり、大会やコンクールに出場したりする機会を設け、その結果、1・2年生が憧れを持ち引継がれていくようにしている。 ・「ふるさと郡上を学ぶ体験学習」では、専門的な指導が継続されるよう地域の指導者による専門的な指導を依頼している。 ・地域で行われる「踊り発表会」や「公民館行事」「青少年郷土芸能フェスティバル」への参加については、地域を盛り上げ伝統を継承していこうと生徒会が全校に参加を呼びかけるようにし、生徒会活動としても継承している。 						

1 ねらい

ふるさと郡上八幡の文化や観光、福祉、産業、街づくり等を題材に取り上げ、地域を舞台に地域の方から学ぶ活動や地域に発信する活動など地域に根ざした活動を推進することで、地域で「まにあう子」の育成を目指すとともに、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う心を育てる。
(ふるさと学習の側面のねらい)

2 活動の概要

【ふるさと郡上に目を向ける(1年凌霜)】

- ・前期(14時間) 共通テーマ「郡上八幡の良さ(魅力)は何だろう」
後期(13時間) 共通テーマ「誰もが暮らしやすい八幡にするために、どんな取組や工夫がされているだろう」
- ・前期・後期共に共通テーマについて、グループごとに調査対象(素材)を選択し、調査・探求活動(文献、インターネット、地域の方に現地調査・インタビュー等)を行い、得た情報を整理・分析し新聞形式でまとめ、発表する。



八幡の良さを調査・取材



分かった八幡のよさを交流



社会福祉協議会の方の講話

【ふるさと郡上で学ぶ（2年凌霜）】

- ・6～10月（27時間）テーマ「八幡中のハローワーク～地域のいろいろな職業について深く調べ、将来の自分の生き方について考えていこう～」
- ・導入段階でハローワークの方の話の聞き、職業への興味関心、意欲を高める。
- ・図書館の本やインターネットを活用しいくつかの興味のある職業について調べることから、八幡町にある事業所（例年約50事業所が協力）で学ぶ勤労体験学習でどのような職種を希望するのかを考えていく。その上で職種を選択し、各自が具体的な計画を立て、体験学習に臨む。
- ・事後には、事業所へのお礼の手紙を書く学習を行うとともに、体験を通して分かったことや学んだことをレポートにまとめ、それを「八幡中ハローワーク情報交流会」として発表し合い、学び合う。



ハローワークの方の講話



勤労体験学習



【ふるさと郡上の将来を考える（3年凌霜）】

- ・9～11月（19時間）テーマ「八幡町の魅力や資源、課題をもとに「町おこし企画書」を作ろう」
- ・導入段階で郡上市市民協働センターの方から話を聞き、より良い町づくりを推進している方々の存在に気づき、町おこしへの参画意識を高める。
- ・八幡町の魅力や資源、課題を各自調べたり考えたりし、共通する内容ごとにグループを編成し、「町づくり企画書」の企画案作り、企画案が妥当か、実現可能か、さらに工夫改善できないか、といった視点で、企画に関する地域の関係者を訪ねたり、案の妥当性や裏付けとなるデータを収集するための調査活動、インタビュー活動を行ったりして「町おこし企画書」を作り上げる。
- ・郡上市市民協働センターが募集する「Good郡上プロジェクト」コンテストに全ての企画書を応募している。



地域の関係者の助言を聞く



企画が妥当か取材・調査



街づくりフェスティバルで発表
(郡上市長さんも出席)

【ふるさと郡上を学ぶ体験学習（2年後期～3年前期凌霜）】

- ・2年生後期（15時間）から3年生前期（20時間）を通して、各自が、郡上の地域に関係する下記のテーマ（活動）から1つを選択し体験的に学習する。

「郡上踊りのお囃子」 「ものづくり」 「スポーツ・踊り」
「郷土料理」 「郡上の美しさ（美術）」

- ・郡上踊りのお囃子指導については毎時間、他の活動についても期間中何度か、地域の専門的な方を講師に招き、地域の素材を活用しながら制作活動や練習を行う。



地域の指導者によるお囃子の稽古



ものづくり



踊り保存会の方に正しい踊り方を学ぶ



郷土料理の調理計画を立てる



郡上の風景を切り絵

【地域行事・催しへの参加（全校）】

- ・年間を通して、生徒会から呼びかけ、地域で行われる「郡上踊り発表会」や「公民館行事（運動会・文化祭・餅つき大会等）」「青少年郷土芸能フェスティバル」「美術展」よういへの参加については、地域を盛り上げ伝統を継承していこうと生徒会が全校に参加を呼びかけるようにし、生徒会活動としても継承している。



踊り発表会



郷土芸能フェスティバルの運営

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

【ふるさと郡上に目を向ける（1年凌霜）】

- ・前期の学習の発展として「八幡の魅力を感じ広げていこう」と呼びかけ、夏休みに開催される「小中学生郡上踊り発表会」に多数が参加し会を盛り上げている。
- ・後期の学習の中で地元の社会福祉協議会の方に「郡上市の障がい者福祉、高齢者福祉の取組」について聞く会を設けている。

【ふるさと郡上の将来を考える（3年凌霜）】

- ・郡上市市民協働センターが募集する「Good郡上プロジェクト」コンテストに全ての企画書を応募している。今年度で3年目となるが、毎年、3企画ほどが入選し「郡上市まちづくりフェスティバル」で発表を行っている。その中から、過去に3つの企画が実際に市や地域の諸団体により実行されている。生徒の新鮮な町おこしのアイデアは地域の方からも大いに評価していただいている。

【ふるさと郡上を学ぶ体験学習（2年後期～3年前期凌霜）】

- ・どの学習も学習の出口に、地域の行事やコンクールなどの催しでの発表（披露）や参加・出品を位置付けている。郡上踊りのお囃子を学習した生徒は、郡上踊り期間中の「こども踊りの夕べ」において踊り屋台で実際に踊り手のために演奏したり、体育祭の全体演技で踊る郡上踊りのお囃子を演奏したりしている。これは、地域の方にも大変好評を博している。また、スポーツ・踊りを学習した生徒は踊り保存会の方の指導も受け、小中学生踊り発表会に率先して参加し盛り上げている。また、郷土料理について学習した生徒は、今年度「中学生学校給食選手権」に応募し本選に残っている。郡上の風景等を切り絵で表現する学習をした生徒の作品を地域の公民館文化祭等への出品し、非常に喜ばれている。



「Good郡上プロジェクト」入選



踊り屋台でのお囃子演奏



ロボットコンテスト出場

【地域行事・催しへの参加（全校）】

- ・年間を通して、生徒会から呼びかけ、地域で行われる「郡上踊り発表会」や「公民館行事（運動会・文化祭・餅つき大会等）」「青少年郷土芸能フェスティバル」「美術展」等に参加したり、ボランティアスタッフとしてお手伝いしたりするなかで、地域の方と触れ合い、地域の行事を盛り上げている。

4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

- ・年間地域の素材を生かし、ふるさとに目を向け、ふるさとについて知ったり考えたり、体験したりする学を通して、ふるさと郡上八幡に対する以下のような思いをもつことができている。

- ・郡上八幡についての新たな気付き（「よさ」の気付き）と「愛着」や「誇り」につながらる思い。
- ・郡上八幡の文化や暮らしを自分たちも大切にしていこう、貢献していこうという思い。

<生徒作文より>

- ・八幡の川は、私たちが思っている以上に美しく貴重なものだと知りました。また、そのきれいな川を支えている地域の方がいることも知りました。私もそんな活動に参加していきたいと思いました。そういう方々を見て、協力する人も増えていくんだと思いました。（1年生）
 - ・この学習を通して、多くの職業がありこの地域も多くの人に支えられていることが分かりました。また、働くということは大変だけど、一人一人が自ら何をしたらよいかなど判断して進んで動いていることがすごいと思いました。私もこういう力をつけていくために、学校や地域で自分のできることや役割を考えて動き協力することを大切にしていきたいです。（2年生）
 - ・「町おこし企画書」の作成を通してお世話になった地域の方々と話をする中で、多くの方がふるさと郡上八幡の活性化について真剣に考え活動していることを知りました。そして、自分たちでもいろいろ考えたり、調査したりする中で、楽しいなと感じたし、八幡のことが好きになりました。自分たちの考えた企画が少しでも役立てばいいし、これから自分たちも参加していければと思いました。（3年生）
- ・1年生から学習を積み上げていくことで、3年生では自分たちがよりよい町づくり「参画」しているという意識や意欲が高まり、本当に熱心に「町づくり企画書」づくりに取り組むようになっていく。その結果、地域の多方面の方や行政関係者からも高い評価を得る企画が多く生まれている。
 - ・こうした3年間の学習を基盤に、生徒会が地域への貢献を呼びかけるようになり、今年度は、校区の公民館行事（運動会・文化祭・餅つき大会等）へのボランティアスタッフとして参加した生徒だけでも現時点で約60名いたほか、小中学生郡上踊り発表会に66名が出演、市青少年郷土芸能フェスティバル運営ボランティアに65名が参加など、土日に運動クラブの活動で多忙な中、多くの生徒が自分たちで地域にせきすることに積極的に取り組むようになりつつある。こうした活動について、地域の公民館関係者の方からは、「中学生が手伝ってくれたり、多く参加したりしてくれるようになって、行事が盛り上がり、本当にありがたい。」という話を多く伺うようになった。生徒たちもこうした機会に地域の方との交流を深め、地域の大人の方と気軽にあいさつを交わすようになるなど、地域の一人として意識が生まれていた。